

文化財の概要

1 長野県宝に指定する文化財

| 名称、員数、所在地 | 所有者 | 文化財の概要 | |
|--|---------------------------|---|---|
| <p>こまちやけじゅうたく 小町谷家住宅</p> <p>つけたり 10棟、附6棟、 工作物10群</p> <p>駒ヶ根市</p> | <p>こまちやあき 小町谷 章</p> |   | <ul style="list-style-type: none"> ○近世、上穂村にあった旗本近藤氏領の代官を勤めた小町谷家の居宅である。中世以来の系譜を持つ家柄で、地域の歴史を雄弁に示す文化財群である。 ○屋敷構えを取り巻く、石積、土塁、建造物は良好に保全されている。主屋を中心に数々の付属建物が配され、外部空間は、庭や作業空間に供されている。 ○地域の民家建築の一部が発展的な変容を経て本棟造の姿を得るに至ることを示す貴重な建築遺構である。 |
| <p>いわなみけじゅうたく 岩波家住宅</p> <p>9棟、土地1</p> <p>諏訪郡下諏訪町</p> | <p>いわなみなおひろ 岩波 尚宏</p> |   | <ul style="list-style-type: none"> ○中山道下諏訪宿の本陣を原形として近代の住居様式に変えられた建造物である。江戸時代の姿を骨格としながら、近代以降も整備されている。 ○皇女和宮が宿泊したほか、明治天皇が休息した主屋の座敷は、泉水を持つ庭と連動して高質な建築空間を現出し、意匠的に優秀である。 ○主屋を中心とする屋敷構えは、本陣としての役割を終えた明治維新以降も、生業と生活が一体となって連綿と保存されてきており、その価値はすこぶる高い。 |

| | | | |
|--|-----------------------------|---|---|
| <p>おたぎりけしよぞうたかとお 小田切家所蔵高遠 じょうにのまるうまやいなり 城二ノ丸 廐 稻荷 ほんでん うわや 本殿・上家及び ほうのうひんるい 奉納品類</p> <p>106 点</p> <p>上伊那郡宮田村</p> | <p>おたぎり やすひこ 小田切 康彦</p> |   | <ul style="list-style-type: none"> ○高遠城廃城にともない、城郭内に所在した建造物等の多くが失われた中であって、二ノ丸に存在した^{おんまや}御廐に祀られていた稲荷社とその奉納品等がまとめて、^{おんまや}御廐に勤役した小田切家に伝来したもの。 ○高遠城内御廐の鎮守社として伝わる物件であり、高遠城の歴史を伝えるのみならず、御廐稲荷に対する藩士等の信仰のあり方を知ることのできる貴重な歴史資料として極めて価値が高い。 ○国史跡高遠城跡に所在した本資料は、高遠藩や高遠城の歴史を理解する上で極めて貴重である。 |
|--|-----------------------------|---|---|

2 長野県有形民俗文化財に指定する文化財

| 名称、員数、所在地 | 所有者 | 文化財の概要 |
|--|-------------|--|
| <p>りんぎょうしりょう 南木曾町の林業資料</p> <p>281 点</p> <p>木曾郡南木曾町</p> | <p>南木曾町</p> |   <ul style="list-style-type: none"> ○近世初頭から江戸幕府の政策により、畿内や北陸などの林業先進地から多くの杣人を動員して、林業開発が急速に展開した時期から使われてきた道具類で、南木曾町が林業資料として収集・所蔵している。 ○木曾谷の杣人達が山仕事に使った鋸や斧などの道具類や、身に着けた蓑、わらぐつ、かんじきなどは、従事者の減少や機械化により散逸して、現在はわずかしか残っていない。 ○木曾谷の林業資料の変遷や形態を知る上でも大変貴重な資料である。 |